

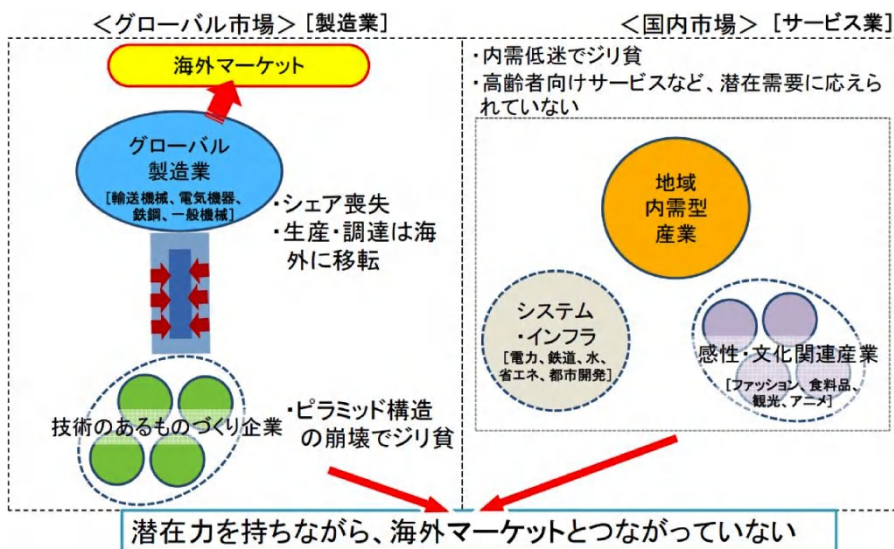
100301

医療・介護を将来の単独各分野に - 経産省産業競争力部会開催

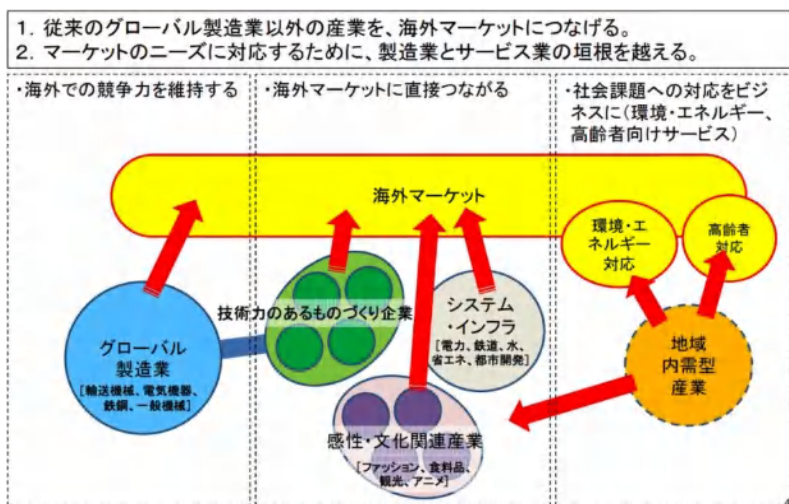
2月25日 経済産業大臣の諮問機関である産業構造審議会が「産業競争力部会」（部会長：伊藤元重・東京大学大学院経済学研究科教授）の第1回会合を開き 日本の産業の今後の戦略を示す「産業構造ビジョン」（仮称）を策定するため検討すべき課題について各委員からヒアリングを行いました。今後は 月に1・2回会合を開き 5月下旬をめぐりにビジョンを策定し 政府が6月にも取りまとめる予定の「新成長戦略」に反映させる方針です。

初会合では経済産業省が 日本の将来をつくるための戦略分野として  
 ○社会課題解決サービス  
 ○感性・文化産業  
 ○新興国のインフラ開拓  
 ○次世代エネルギーソリューション  
 ○先端分野  
 の5つを提示しました。  
 社会課題解決サービスでは 医療や医薬品 医療機器 介護など健康関連分野を挙げたほか 感性・文化産業には「医療ツーリズム」が盛り込まれています。

【産業構造の現状】



【目指すべき産業構造の方向性】



会合の冒頭であいさつした直嶋正行経産相は「社会保障について新しい産業として見直していく」と述べました。また 伊藤元重部会長は「成長がない限りは 社会保障にしても財政問題にしても 長期的に満足には応えられない」として経済成長の重要性を指摘しました。  
 ヒアリングでは 土屋了介委員（国立がんセンター中央病院病院長）が「日本の医療機関は規模が小さく 医療機器などの開発が困難」と指摘したうえで「規制を緩和し 産業と医療が一体となって開発を進めることが重要だ」と述べました。

委員のメンバーに 介護事業の関係者が一人も入っていないのがなんとも残念ですが 4月5日に予定されている第3回会合では「医療・介護・健康・子育てのニーズをビジネスに活かせるか？」がテーマになっています。